

## 結婚と私

－自分がしたいこと－

グループ3、金美賢（キムミヒョン）

### 1. 紹介文

私は28歳です。28歳と言ってもそれはあくまで日本の歳で、数え歳の韓国では29歳です。私が日本に来たのは今年の4月、来年の2月に韓国に帰ったら30歳になります。今は28歳なのに、来年韓国に帰ったら突然30歳になってしまうのが何かすごく不満ですが、当然なことだと自分を慰める毎日です。韓国では、女性は少なくとも30歳（日本の歳では28～9歳くらいになるでしょう）になる前には結婚した方がいいという考えがあります。この「結婚した方がいい」というのは柔らかい言葉使いで、実際は30歳が近づくと、親や親戚から「彼氏はいるの？」や「いつ結婚するの？」、「そろそろ結婚しなきゃ」などの質問をされ、本当に喧しいです。それで、もともとは今年に結婚する予定でしたが、もっと日本語の勉強がしたいという気持ちもあって悩んでいたところでした。その時、運よく交換留学生に選ばれ、見事に日本に逃げてきたのはよかったものの、時は早く、もうすぐ韓国に帰らなければいけません。日本に来る前は、帰ったらすぐ結婚しなきゃ、と思っていましたし、多分帰ったらすぐにでも結婚できると思いますが、こっちに来て生活している間、もっと勉強したいと思うようになりました。特に言語に興味があり、日本語だけではなく中国語や英語など、さまざまな言語を学びたいという夢を持つようになりました。それで、今期から中国語の授業を取り始め、来年には中国に留学に行くことも考えています。ですが、そうなると多分結婚はできず、また延ばすしかないし、彼氏も私のことを待ってくれるか分からないので、なかなか決められず、今にも悩んでいるので、「結婚と私」をテーマとすることにしました。それと、社会というのはいろいろな形がありますが、結婚というのは、家族や学校、会社などのすでに作られている社会とは違うもので、結婚するというのは、自分が主体となって新しい社会を作ることだと思います。ですから、そんな面も含め、結婚についてもっと深く考えてみたいと思いました。

### 2. 散歩に行ってみて

次に散歩についてですが、1回目の散歩の計画を立てる時、テーマを決めていた人は私と夏童さんの二人でしたので、二人のテーマと関わっていきそうな所はどこなのか迷いましたが、いろいろ話した後、千秋公園に行くことにしました。私が千秋公園を散歩地として選んだのは、私が子供の時、週末になったらよく家族みんなで公園に遊びに行ったもので、もし私が結婚したら私もそうしたいという考えが何となく私の中にあっただからです。散歩に行くと、結婚についてグループのメンバーたちといろいろ話をしました。話し合いの中で分かったことですが、女性は30歳になる前に結婚した方がいいという考えは日本と中国でも同じだそうで、ちなみに男性は30歳を少し超えても大丈夫だそうです。ですが、結婚の準備や過程は国によって少し違い、それについて話を聞くのも楽しかったです。その他にも、メンバーたちの結婚観に関する話をしましたが、まだみんなには遠い話のようで、でもみんなまじめに考えて話してくれて嬉しかったです。

### 3. 話し合いの結果

今、私は結婚するかそれとも勉強をするかというのを決めなければいけない状況です。結婚して勉強する方法もありますが、私の場合には留学も考えていますので、彼氏は、やるなら結婚する前にやりなさい、と言っています。結婚したら仕事や勉強より、家庭に充実してほしい、というのが理由です。それは仕事や勉強をやめなさいという意味ではないが、優先順位という点で、家庭が一番になってほしいと彼は言いました。だがそれは、私から見ると、留学を諦めなければいけないということの意味し、その上、本格的に言語の勉強をするのもできず、ただ趣味として塾などで勉強する道しか選べないということです。それで、グループのみんなに、もし私と同じ状況ならばどうするのかについて話を聞いてみました。特に秋山さんと夏童さんには、男としてではなく自分が女だと仮定し、考えてもらいました。まず、秋山さんと英里佳さんは、その時子供がほしいかほしくないかによって違うと言いました。歳をとって出産するのは自分にも子供にもよくないから、もし子供がほしければ夢を諦め、結婚するということでした。また、もし子供がほしくなければ夢を追うが、35歳までだという制限がありました。その理由としては、いずれは結婚して子供を産まなければいけないから、すくなくともその歳には結婚した方がいいということでした。そこで、何で結婚して子供を産まなければいけないのかということを知りたいと聞いたら、二人とも、子供が好きだし、子供を産んで育つということの楽しさや嬉しさについて親や周りの人から話を聞いたので自分も経験したいと言いました。それに比べ夏童さんは、子供の方は養子でもいいので夢を追うが、まず結婚をしてから夢を追うと言いました。その理由は、お互いに支えながら夢を追いたいからだそうです。それと、少しでも早く結婚して、安定している状態で夢に専念したいと言いました。

私は、どちらかといえば秋山さんと英里佳さんと同じく、今ではなくてもいずれは結婚して子供を産みたい方なので、二人の考えに共感しました。だが、まず結婚して安定している状態で夢を追うという夏童さんの考えもいいと思いました。人生の大きな宿題の一つが結婚だとすれば、やはり結婚して、その後で夢に専念するのもいいと思ったからです。それとお互いに支えられる人がいるのも心強いことなのではないでしょうか。

### 4. 結婚と私

みんなの話を聞いていたら、なぜ結婚をしなければいけないのか、という疑問が生じました。結婚したくないという意味ではなく、私はなぜ結婚しようとするのか、つまり結婚の目的は何なのかについて考える必要があると思いました。安定した生活がしたいから、子供がほしいから、歳を取ったから、など結婚したいと思う理由はいろいろありますが、「好きな人と一緒にいたいから」という理由がすぐに浮かばないのはなぜでしょうか。先生からコメントをもらう前には全然気づかなかったので自分にも結構ショックでした。もちろん結婚するとすれば、当然好きな人になりたいのですが、「好きな人と一緒にいたいから結婚する」という考えが気づかないうちに自分の中から消えてしまったような気がして、何かすごく悲しいです。昔は、安定した生活や歳、子供などは考えもせず、ただ相手のことが好きだから、一緒にいたいから、その人と結婚したいと純粋に思っていたはずなのに、いつの間にか結婚するのが、しなければいけない重い義務のようになってしまったのが分かりました。私はこのレポートで私と結婚について考えてみることで、何が自分に一番大

切なのかという質問の答えを探したかったのですが、その答えはもう出ていたのではないのでしょうか。ただ自分が気づかなかっただけで、私にとって結婚はやっておくべきの人生の宿題のようなもので、本当に自分がしたいのは結婚ではなく勉強だったということが分かりました。もちろん結婚して安定した生活がしたいのも、子供を産んで家族みんなで幸せな生活を送りたいのも事実ですが、それよりも私は自分がしたいのをしてながら生きていきたいです。今まで自分が生活したい環境と自分がしたいことが対立していたことが一度もなかったのに、自分が本当にしたいことが何なのかを気づくのが遅かった理由だと思います。しかし、したいことが分かったとしてそのために他の何かを捨てる覚悟もまだ自分には全然できてないし、そうしたくないです。ですから、来年韓国に帰ったら、彼氏はもちろん家族ともまじめに話して、自分がしたいことを理解してもらえるように頑張ってみようと思っています。何も諦めずに自分がしたいことをするというのは、欲の多い考えかも知れないが、やはり私は何れも諦めたくないの、一応全力でぶつかってみたいのです。

#### 5. 「社会」とは何か

「社会」とは何か、それについてははっきり答えるのは多分できないと思います。ただ言えるのは、どの社会でもその中心は「私」だということです。家族や学校、会社など、私たちはみんな複数の社会に所属され、その中で生きています。その社会たちは自分が望んで入った社会もあるし、そうではない社会もあるはずですが、どの社会でもその中で生きるというのは自分の意思で、自分が選んだことだと思います。また、そういう社会をどうやって生きていくのかも自分次第なのではないのでしょうか。

#### 6. クラスについての感想（改善を希望する点）

レポートのテーマは、前期よりは今期の方がよかったと思います。他の人のことを書くというのは、おもしろいかも知れないが、書きにくい部分があるのも事実なので、自分にとってはかなり難しかったです。それに比べ、今期のテーマは自分のことで、みんなと話し合いながら自分の中のいろいろな考えを整理し、自分なりの答えを見つけるのができたと思います。ただ、最初の授業で先生からテーマについて説明を聞いたとき、先生が何を望んでいるのか、私たちがこの授業で何をしてほしいのかがよく分からなかったです。いきなり「私と社会」について考えてほしい、と言われても何を考えればいいのかが全然捕まえられなかったし、それで最初はすごく難しく感じました。レポートをどういうふうを書くのかという説明も大切ですが、何のために書くのかというのをもっとはっきり教えてもらったらいいなと思いました。レポートの目的を明確にすることで、授業でもっと充実に活動することができるのではないのでしょうか。

最後に、私は今期の授業で自分がしたいことは何か、それと自分に大切なことは何かというのが分かったので、本当に感謝しています。ありがとうございました。